

問題 12. 扁平上皮癌

症例：92歳、女性。歯肉潰瘍。

検体（採取法）：歯肉（綿棒擦過）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、背景に多核組織球がみられる。 ×
2. VSでは、表～深層系細胞に異型がみられる。 ○
3. VSでは、カンジダがみられる。 ×
4. 喫煙との関連性が指摘されている。 ○

解説

リンパ球主体の炎症性背景に壊死性背景もみられ、扁平上皮の表層～深層の細胞が出現し、重積性を呈するクラスターを形成している。 オレンジG好性の角化細胞が不整な形態で出現している。 ライトグリーン好性の厚い細胞質をもつ細胞は、N/C比増大、核縁不整・肥厚があり、クロマチンは増量し分布も不均一である。角化傾向をみる異型細胞とともにN/C比の高い基底細胞様の細胞も出現している（図1、図2）。

カンジダが口腔がんにも2次的に感染している場合もあるが、本症例ではカンジダはみられない。

喫煙は口腔扁平上皮癌の最大のリスクファクターであり、飲酒や不適合な義歯なども口腔扁平上皮癌のリスクファクターとなる。

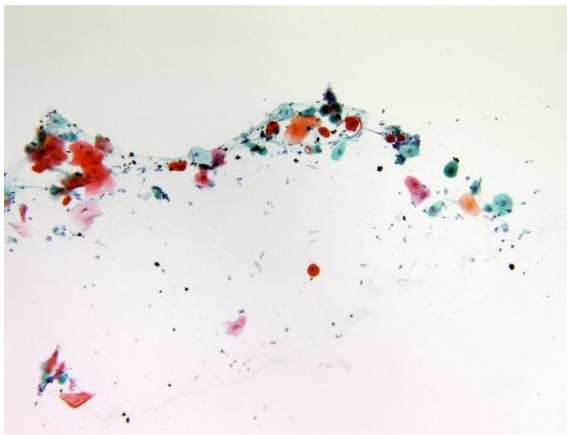


図 1



図 2